

HOME > 研究活動 > 重水素実験について > 重水素実験安全評価委員会の報告と審議概要について > 核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会<第23回>

## 核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会<第23回>

重水素実験安全評価委員会（第23回）が、令和5年1月27日（金）に核融合科学研究所において開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン会議システムを併用して、午前10時00分から11時50分まで行われました。委員会には、11名の委員（現地4名、オンライン7名）と、オブザーバーとして関係自治体から4名（現地1名、オンライン3名）の方が出席されました。本委員会は公開されており、今回は2名の方が傍聴され、報道関係2社が取材に来られました。

委員会では、片山幸士委員長（人間環境大学名誉教授）の進行のもと、議事に従って研究所から、「大型ヘリカル装置（LHD）における第6年次の重水素実験実施結果の概要等について」では、2022年度（第6年次の重水素実験）の研究成果の概要及び放射線等の管理状況などの報告、また、「大型ヘリカル装置における重水素実験終了後の安全管理体制等について」では、重水素実験終了後のLHDの放射線管理の考え方や緊急時の連絡・監視体制などの説明がありました。

委員からは、「重要な成果を上げながら、安全に重水素実験が終了したことは評価に値する」、「地域住民の方々、関係自治体への丁寧な説明を行ってきたことが評価されており、今後も情報公開と活動内容の丁寧な説明を継続してほしい」などの意見等があり、活発な議論が行われました。

また、閉会にあたり、委員長から、重水素実験終了後の放射線計測等の安全管理や、緊急時の連絡・監視体制の強化を目的として実施してきた研究所職員による宿日直体制の終了に関して、研究所側からの説明に理解を示した上で、委員会として了承した旨の発言がありました。



### 議事

#### 報告事項等

1. 大型ヘリカル装置（LHD）における第6年次の重水素実験実施結果の概要等について

#### 審議事項等

1. 大型ヘリカル装置における重水素実験終了後の安全管理体制等について

#### 配付資料

資料1：[核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会委員名簿](#)

資料2：[大型ヘリカル装置（LHD）における第6年次の重水素実験実施結果の概要等について](#)

資料3：[大型ヘリカル装置における重水素実験終了後の安全管理体制等について](#)

◆ 当日の会議録は確定後、公開します。

## 核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会委員名簿

令和5年1月27日現在

### 【50音順】

いがらし みちこ 五十嵐 道子	フリージャーナリスト	
うへだ しんじ 植田 真司	公益財団法人環境科学技術研究所 環境影響研究部 部長	
かたやま ゆきお 片山 幸士	人間環境大学 名誉教授	[委員長]
きさお まみこ 笹尾 眞實子	東北大学 名誉教授	
たまき ともふみ 玉樹 智文	元 島根大学法文学部 准教授 石拾地区核融合科学研究所環境保全対策委員会 委員	
ふくわ のぶお 福和 伸夫	名古屋大学 名誉教授	
ふじ まさよし 藤 正督	名古屋工業大学先進セラミックス研究センター 教授	
まなべ たかゆき 眞部 孝幸	中京学院大学看護学部 学部長補佐・教授 大阪大学大学院連合小児発達学研究科 招へい教授	
ももしま のりゆき 百島 則幸	九州環境管理協会 理事長 九州大学 名誉教授	[議長代理]
もりした なおき 森下 直貴	京都府立医科大学 客員教授 浜松医科大学 名誉教授	
わたなべ かつし 渡辺 勝士	元 土岐市立泉西小学校 教頭 石拾地区核融合科学研究所環境保全対策委員会 委員	

### [オフザバー]

土岐市、多治見市、瑞浪市、岐阜県の担当部長

重水素実験終了後の  
安全管理体制を了承

核融合で評価委員会

核融合発電実現に向けた  
研究などを進める核融合科  
学研究所(土岐市下石町)  
で二十七日、大型ヘリカル

装置(LHD)の重水素実  
験終了後初めてとなる安全  
評価委員会があり、実験後  
の安全管理体制に対する同  
研究所の提案を了承した。

研究所によると、重水素  
実験の終了に伴い、新たな  
中性子やトリチウムの発生  
はなくなる。今後の放射線

管理については法律に則し  
た測定、監視を継続するの  
に加え、同研究所で一定期  
間さらなるモニタリングを  
続ける。LHDは引き続  
き、核融合科学を中心とし  
た学術研究の基盤として使  
用していくという。

また、重水素実験開始時  
から数く宿日直体制も一月  
をもって終了する案につい  
ても了承した。

この日は有識者や地元関  
係者ら委員十一人が会場、  
オンラインで参加。昨年に  
実施した実験概要も報告さ  
れた。

(脇阪憲)

## 敷地外の放射線モニタリング

## 核融研、近く終了方針

土岐市下石町の核融合科学研究所の第23回重水素実験安全評価委員会(委員長・片山幸士人間環境大名誉教授)は27日、同所で開いた。大型ヘリカル装置(LHD)の重水素実験が先月終了したのに伴い、敷地外で行っていた放射線のモニタ

リングなどを近く終える研究所の方針を了承した。

研究所側は、本年度は重水素実験を12月2日まで、軽水素やヘリウムを使ったプラズマ実験を同月27日まで行い、安全に終了したことを報告。中性子やトリチウムの総発生量は年間管理

値の12%(速報値)で、大きく下回ったとした。

今後はLHDで放射線が発生する実験を行う予定がなく、RI規制法(放射性同位元素等の規制に関する法律)に基づき放射線発生装置からの除外を申請する。一方、重イオンビームプロトタイプ計測装置加速器が2台あるため、引き続き放射線発生装置の管理区域を設定して管理を継続していく。

LHD実験棟周辺の放射

線モニタリングは近く終了を検討し、敷地外での積算線量計による放射線測定と水道水の測定は2023年度末で終了するとした。

委員からは、安全に重水素実験を終えることができたことに対する評価が寄せられたほか、今後の調査については次回年報の数値をみて改めて検討するとした。また、24時間体制としていた宿日直体制の終了についても了承した。